

災害に備える！救護関係三奉仕団合同研修に参加しました。

平成27年2月14日（土）に、横浜市立みなと赤十字病院前の支部災害備蓄倉庫にて、資機材の取扱を主とした「平成26年度赤十字救護関係三奉仕団研修」が開催されました。



救護関係三奉仕団（神奈川県救護赤十字奉仕団、神奈川県無線救急赤十字奉仕団、神奈川県山岳赤十字奉仕団）は、それぞれの特徴を活かしたボランティア活動を日々行っていますが、災害時には、支部の指揮の下、救護班とともに実際に災害現場に行って救護活動を行うほか、支部に災害救護本部支援センターを立ちあげ、救護活動を支援する活動などを行います。

研修は各奉仕団から参加した46名が三班に別れて、東日本大震災を教訓に新たに救護資機材が整備された「DRASHテント」、炊き出しや救護班の食事支度に使用する「コンロカート」、災害時に欠かせない「発電機」の取扱をメーカー担当者と支部職員から学びました。



参加した団員の中には、実際に過去の災害時に活躍された方も多く、特にテントは降雪や風にも強く、他のテントとも連結できるなど、現場での有効性や利便性を確認することができ、より熱心に研修に参加していました。



我々、救護関係奉仕団員は日ごろから減災や防災のために活動することはもちろん、災害時に安全で迅速な救護活動ができるように、今後も訓練の実施、研修へ積極的に参加をして災害に備えていきたいと心を新たにしました。

神奈川県赤十字奉仕団 横浜分隊 鈴木幸一